

令和6年度第2回甲賀市地域福祉計画審議会 会議録

【日時】 令和6年9月30日（月曜日）10時00分～11時30分

【場所】 水口社会福祉センター 会議室1

◎出席委員

名簿：別紙1のとおり

◎次第

- 1 開会
- 2 審議事項
 - (1) 第2次甲賀市地域福祉計画第2期の取組結果について（令和5年度分）
 - (2) 第2次甲賀市地域福祉計画第3期 第4章 施策の展開（案）について
- 3 報告事項
- 4 その他
- 5 閉会

1 開会

○ 市民憲章唱和

2 審議事項

- ・ 第2次 甲賀市地域福祉計画 第2期の取組結果について（令和5年度分）
- ・ 第2次 甲賀市地域福祉計画 第3期 第4章 施策の展開（案）

事務局より説明

【会 長】

事務局から報告いただきました。本日は3つのグループに分かれて疑問点と改善点について、ご意見を出していただきますようお願いします。

《グループにて意見交換》

【会 長】

それではどのような意見が出されたか共有したいと思います。

【委員（グループ1）】

グループ1で出た意見を発表します。

地域福祉計画の委員の中に、企業の方も入れていただくと、障害のある方の社会参加を進めるためにも良いのではないかと。

福祉現場の職場体験(中学2年生)はぜひ続けて欲しいし、高齢分野だけではなく障害分野の職場体験も進めて欲しい。

ヘルプマークを配布する際、目的や利用のリスク、デメリットの説明をした上で渡して欲しい。

民生委員、地域での支援者を募集しているが、なかなか集まらない。また、行政は募集する時は手伝ってくれるが、募集後もサポートしてもらえるとより良いのではないかと。

民生委員と健康推進委員とのつながりが無いのがもったいない。課・所轄が違うということもあるのかもしれないが、地域の中でつながれば、もっといろんなことが出来るのではないかと。

身寄りのない問題について、P60の書きぶりでは高齢者の問題として書かれているようだが、高齢者だけの問題ではなく、身寄りがあっても障害のある方が居たり、近くに身寄りが居ない世帯など同じような課題がある。身寄りのない問題という言い方ではなく、身寄り問題という言い方はどうか。身寄りがないことが問題だというふうにはみられないような言い方が良いのではという意見が出た。

【委員（グループ2）】

グループ2で出た意見を発表します。

P52 の民生委員との連携が必要ということで、いろんなところに相談をつなげていく役割を担っていただいているが、欠員が増えてなり手が居ない。定着するにはどのようにしていくのが課題である。

P59 の避難行動要支援者の避難体制整備のことで自治会での防災計画を立てていく時に障害のある人をどのように支援するか専門的な知見であったり、どのように支援して欲しいのか本人の意見を聞くことが大切である。ハード面では、福祉避難所のバリアフリーが徹底されるように。車いす対応のトイレが無かったり、身体障がいの方だけでなく精神疾患の方、実際に普段の支援者が近くに居ない時にそばに居る人が対応できるような、本人が落ち着くための何か説明できるものが必要ではないか。

同じく P59 のすべての人の権利を守る取り組みというところ、子どものことが置き去りになっていないか。まずは子どもの権利教育があって、そこから困った人を助けるという枠組みだと思うが、子どもが権利の主体であることを地域福祉計画にしっかりと盛り込んで欲しい。

障がいのある人の就労活動で、作業所の工賃であるとか、実際には企業で勤められる人、サポートがあれば勤められる人への支援が必要ではないか。企業側も企業の CSR として、そういうことを担っていく責務もあるのではないか、そういうことの明記もあった方が良いのではないか。

令和 5 年度取組結果の報告の中で、各サポーターの人材育成は、受けた人が実際にどれだけ活動に従事しておられるか、利用者の満足度とかフォローアップが必要なのではという意見が出た。

【委員（グループ3）】

グループ3で出た意見を発表します。

商工、労働側の意見を反映させたらどうか。働く人たちを見守る体制が必要だと感じる。雇用(障がい者雇用も含めて)の受け入れを促進するためにも必要なのではないか。

福祉計画の中にある言葉・文言が抽象的で分かりにくい。例えば P44 の「市民の取り組み」の1行目、「地域の中でのあいさつ・呼びかけ」これは何なのか。おはようなのか、見守りの声掛けなのか。「地域の中で活動している方に話してみましよう。」これは誰なのか。話してみるとは？「行政の取り組み」の、「最低限の生活を送ることができにくい」とは？「意思」とは誰の意思なのか。

色々な団体が無くなってきているのでは。いきいきクラブや老人クラブ、子ども関係。なぜ無くなっていくのか深めていく議論が必要ではないか。結論は後継者不足であるのでしょうか。

P50 の人材確保は、人が減っていくだけで現実無理ではないか。P52 に社会福祉法人の連携促進とあるが、人が居ないからこそ情報とか実際の支援をしていかなければならないので、現場はその日を回すのに大変であり、施設・法人を飛び越えて連携していくには

時間がかかる。

【会 長】

たくさんのご意見ありがとうございました。事務局から何かありませんか。

【事務局】

企業、商工労政との連携について、アクションで起こさないといけないと思った。審議会に委員として商工労政の担当者や企業に参加してもらおう。

高齢者、障がい者、子ども、いろんな立場の人が居るが、各ジャンルによっては高齢者に偏っていたりすることがあり、見直しが必要である。

書きぶりについて、分かりやすい書き方が必要である。

委員の皆様は地域の危機感が強い。子どもが少なくなるだけでなく、老人クラブなど今までであった地縁・つながりが無くなってきているが、その受け皿はこれからどうしていくのか。

福祉現場では、人材確保と言うけれど確保は本当に難しく、今あるもので何とかやっているんだ、という意見をいただいている。

福祉計画は各部署で連携していきながら考えていくのだが、社協さんとはいろいろ相談しているが、出された意見が福祉だけにかかわることでは無いこともあり、総合計画にも今日の出された意見をあげていかなければならないと思う。

たくさんのご意見ありがとうございます。

【会 長】

私から3点ほど。

昔は日本の経済を上げるには、全体的な目標があった時代。今は一人ひとりがどうか、外から見るのではなくて一人ひとりの意見を聞く、内側から見ていくということが大切な時代である。

つなぐ、とは言っているが、日本の特徴で「連携の型」を作ることはするのだが、そこから次の新しい「作っていく」というのが無い。「子どもたちに教える」から「子供たちから教わる」体験、それを楽しんでいくという考え方に変えていく。

甲南高校のプリン→障がい者がかかわる→企業(販売)→甲賀市観光→企業→福祉職場体験→甲賀市広報がこんなに良いことをしている企業があることを発信する、その企業にとってはかなりの宣伝になる。観光→ふるさと納税→税務課など、このようにひとつひとつをつなげることができるのではないかと。新しい発想が出てきたときに、無理かもしれないとは思わずにいっぺんにしないでひとつひとつ、楽しんで取り組んでいくようにしていけば良いのではと思う。

【会 長】

他にも質問や気づきの点等がありましたら、質問シートに記入していただき、10月10日までに返信してください。

以上で本日の議題はすべて終了いたしました。委員の皆様にはそれぞれの立場なりからのご意見をいただき、また円滑な議事の運営にご協力いただきありがとうございます。

4 報告事項

・策定スケジュールについての説明

5 その他

特になし。

6 閉会

それではこれで閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。どうぞお気をつけてお帰りください。